

日本语言文化 研究文集

刘笑非 段克勤 主编

新語からみた『明六雑誌』の二字漢語
補助動詞としての授受動詞の用法について
日中詫びの慣用表現についての一考
浅析商务日语的语言特征与日本社会文化的关联
言語文化についての考察
対日商务交往中电子邮件的使用知识和礼仪
命令文における終助詞「ね」の意味用法

中国林业出版社

北京林业大学科技创新计划项目资助

日本语言文化研究文集

刘笑非 段克勤 主编

中国林业出版社

图书在版编目 (CIP) 数据

日本语言文化研究文集/ 刘笑非, 段克勤主编. —北京: 中国林业出版社, 2011. 4
ISBN 978-7-5038-6121-5

I. ①日… II. ①刘…②段… III. ①日语—文化语言学—文集 IV. ①H36—53

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2011) 第 050142 号

出版 中国林业出版社 (100009 北京西城区刘海胡同 7 号)

网址 <http://lycb.forestry.gov.cn>

E-mail forestbook@163.com **电话** 010-83222880

发行 中国林业出版社

印刷 北京北林印刷厂

版次 2011 年 4 月第 1 版

印次 2011 年 4 月第 1 次

开本 787mm × 960mm 1/16

印张 9.75

字数 170 千字

印数 1 ~ 1000 册

定价 30.00 元

前 言

随着中日两国之间的文化交流不断加深，全面、深入地了解日本文化和日本社会已经成为日语学习者和日语教育工作者的必要课题。本论文集共收录了 21 篇论文，论文的内容涉及了日语教育、日本社会、日本文化、日语语言、日本文学等多方面的内容。为学习日语、日本文化有兴趣的人员提供了学习和交流的平台。

本着尊重原作、文责自负的原则，编者对本论文集集中的论文的观点及论述未做改动。由于时间和水平所限，论文集中肯定会存在缺点和不足，敬请批评指正。

编 者
2010 年 12 月

目 录

新語からみた『明六雑誌』の二字漢語	毕春玲 (2)
補助動詞としての授受動詞の用法について	陈咏梅 (8)
日中詫びの慣用表現についての一考	崔信淑 李 军 (16)
『〈時名詞〉+中(チュウ)』と『〈時名詞〉+中(ジュウ)』の 使い分け	段克勤 (25)
浅析商务日语的语言特征与日本社会文化的关联	范婷婷 (33)
言語文化についての考察	段克勤 (40)
対日商务交往中电子邮件的使用知识和礼仪	范婷婷 (49)
命令文における終助詞「ね」の意味用法	范晓萍 (58)
日本茶道文化与人生哲学	李 红 游衣明 (64)
从日语惯用句看日本对中国古代文化的受容	刘笑非 (70)
论《舞姬》主角身上体现的明治社会启蒙特征 ...	马 力 游衣明 (75)
日本电子出版的发展探析	宫丽颖 (80)
日本語の一人称代名詞について	陈咏梅 (90)
当代中国的日本人论研究	刘笑非 (97)
从母后政治看古代日本女性的政治地位	王月婵 刘笑非 (102)
从日语看“内外有别”的日本文化	魏 萍 (107)
从内外意识看授受动词的习得	张 慧 (113)
中日外国留学生奖学金制度和对策的比较研究	刁雅榕 (119)
日语道歉表达的文化视角研究	魏 萍 (126)
「気」と日本文化	祝 葵 (135)
从「なさる」看日语敬语贬值现象	周明巍 (143)

从新语看《明六雜誌》中的二字熟语

毕春玲

(哈尔滨工业大学外语学院日语系)

摘要: 本文以明治初期日本的机关报《明六雜誌》第1至第13期中所抽出的二字结构的汉语性词汇为研究对象,对其中的新生词汇、翻译词汇等进行了分析和比较。

(1) 在相当长的历史时期日本借用学习中国古典,其影响深远。采用统计分析的方法举实例论述日本在进入明治之后,受西方文明影响或在表达新生事物时所产生的翻译性词汇借而使用了中国古典中的表达。这部分新生词汇已被融入并吸收到中文词汇中并被赋予了新的含义,至今在中日两国的语言及日常生活中频繁使用。与此同时,针对同一新生事物中日两国的不同翻译,从而也生成一部分新词汇。

(2) 比较分析中日两国语言本质,词汇体系的异同之处。其相同之处为同使用汉字;而其不同之处在于汉语的汉字表意性强,而日文假名的表音性强之特点。

主要通过以上两个视角窥见日本在进入明治时期后伴随西方文明的涌入以及对外交流的展开,在此大背景下语言本身特别是词汇方面的发展变化,同时揭示了明治初期中日两国之间在词汇交流方面的实质。

关键词: 《明六雜誌》; 二字熟语; 新造汉语; 西洋文明; 词汇交流

新語からみた『明六雑誌』の二字漢語

畢春玲

(ハルピン工業大学外国語学院日本語学科)

要旨 『明六雑誌』における二字漢語のうちに、日本で作成された西洋文明に関する訳語は、その多くが中日両国の日常生活で頻繁に使用されている。このような新造漢語は中国語の語彙体系に組み入れられ、新しい意味を付与するものがあつた。明治初期の日本語の様相を少し明らかにすると共に、中国との語彙交流の実際についても述べたものである。

キーワード 『明六雑誌』；二字漢語；新造漢語；西洋文明；語彙交流

一、はじめに

『明六雑誌』は明六社の機関誌として、教育、思想、学術、宗教、技術、経済、貿易、政治、外国事情、生活、女性問題などでは、さまざまなテーマが取り上げられ、自由で闊達な論議が展開されていた。近代日本の黎明期を代表した文献と位置づけられている^[1]。

本稿は『明六雑誌』の1号から13号までに抽出した二字漢語を対象とする。新語、翻訳語の視点から漢語の様相の一部を考察していくと共に、中国と日本の語彙交流の実際についても調べたいと考えた。

二、新造漢語

従来の日本は、奈良時代から江戸時代にかけての長時間にわたり、中国からの文化を一方的に受容するばかりであつた。ところが、明治初期は漢文の素養を身につけた知識人たちが漢語の知識を駆使して西洋文明を摂取した時代であつた^[2]。中国の古典に基づいた訳出した熟語は日本

全土に十分に浸透していた時代でもあった。

『明六雑誌』の二字漢語のうちに、古く中国の典籍や仏典に同一表記を持ち、新しい意味を付与するものがあった。

中国に受容された現在にも日常生活の中で常用されている新訳語例を挙げてみる。

第1号の「文学」は『論語』先進編に出る語で、学問・學術の意であった。しかし、同じく literature の訳語としての「文学」を共有すると言っても、中国ではこれを史伝や議論の文までも含む、より広い範囲に理解し、日本がこれを含ませぬ方向で理解するそれとは異なる。

第7号の「芸術」(art)は『晋書』芸術伝に出る語で、吉凶禍福を判断したりする技術を言った。

9回頻出した「文化」(culture)は晋の束皙の「補亡詩」六首の第六「由儀」など祖に出る語で、武力・刑罰に対し、文徳で人民を教化する意であった。

15回頻出した「文明」(civilization)は『易経』乾、文言伝に出る語で、文の徳が輝き、秀ぐれた学問があること、あや模様をそなえかがやくことの意であった。

「封建」「階級」「抗議」など、みな、中国古典に典拠を求めうる語で、日本で新しい意味に考え出された語彙であった。

しかし、中日両国語同一の語彙であっても相互にそれぞれの文化の体系を背景とし、それぞれの語彙体系の中に位置して用いられているのである^[3]。

中日両国に不同した訳語の例を見ていく。

第3号に出ている「汽車」は同じく明治期に福沢諭吉によって訳された train の訳語であるが、中国ではこれが自動車の意味で訳出され、日中両国表す内容は異なる。日本の「汽車」は中国では「火車」(huo che)と言われる。また、「切手」という明治期の訳語は受容されず、「郵票」(you piao)と訳される。

第10、11、12号に、12回出現した「理学」は中国で作られた、西洋

語から直接の訳語の一例である。これは結果として日本で各々同一の訳語が中国でも用いられるようになり、中国語訳が淘汰された例である。

第9号に出ている「鐵路」（鉄道の意）は日本語の訳語が行われず、中国での訳語としてそのまま現在に行われている二字漢語である。

以上、『明六雑誌』に出現している二字漢語は日本の近代として、磯貝秀枝（1964）^[4] 古典からの引用や漢英辞書から借用、まったく新しい造語、中国語の造語法に似せた訳出などからがあることが知られ、これが中国語と種々の離合関係を持つことが知られた。

三、中日語彙の比較

日本における漢語とは国語の中に用いられる中国起源の語のことである。日本の漢語と中国の語彙は同じく漢字表記であらわされるため、「同文同種」の錯覚を持たれたりする。しかし、両国の文化は明瞭に異なり、各々の言語もまったく体系を異にする。

（一）共通点

『明六雑誌』第3号、第13号に出現した「経済」、頻出回数26回ほど高い「法律」を注目して述べてみよう。

両語とも本来日本で作られた翻訳語語彙で、中国に輸入したものであった。日本人作った「経済」は中国では「jīng jì」として受容され、「法律」は中国では「fǎ lǜ」として受容され、中国語の語彙体系に組み入れられた。現在両語とも日中生活で頻繁に使用されている。

このように近代以後の翻訳語彙を中日両国間で共有するようになっていく点は、両国語の語彙の注目すべき現象であると言える。漢語は表意文字であるため、視覚に訴えて理解するという重要な特色を持っている。意味を表現する漢字は時代と地域を超えて、視覚から容易にこれを共有され、ために、近代における日本での新造漢語も中国に理解され、受容されたのである。鈴木修次（1981）^[5] 明治四十年代に中国の在日留学生は一万人を超えたと言われるが、おもにこの人たちに新造漢語は学ばれ、本国に紹介された。一方に、中国の洋学者劉半農らによる西欧か

らの直接の翻訳もあったが、啓蒙思想を推進した梁啓超らは西欧文明の理解に日本から学ぶことの上策であることをすすめた。明治維新は中国に学ばれたが、また、日本を通して西欧文明の理解も行われた。

以上のように、中日漢語語彙は視覚の上で理解されるという共通点を持つのである。

(二) 相違点

日本語と中国語は本来、膠着語と孤立語という特性を基軸として質的異なる言語である^[2]。例えば、中国語本来、表意文字を用い、漢字が一字、一音節、一義を原則とするそれと、表音性の強いかな文字を持つ日本語とでは一字の意義の担い方が格段に異なる。

ところが、漢字一字が多く具体的事物に即して造り出され、抽象的表現には不得手である。日中両国間の語彙は実は言語の相違、国情の相違を反映して、漢語語彙の場合においてもさまざまな意義のずれ、用法のまったくの異質性を示すのである^[5]。その一端を『明六雑誌』の二字漢語で例示してみよう。

(1) 同一「車」、「家」、「勉強」の漢字で表されながら、日中両国間での意味の異なるもの。

明六漢語（出典、頻出度）	日本語	中国語
汽車（第3号、5回）	自動車	バス
大家（第3、11、12号、3回）	世家望族	皆さん
勉強（第1、4、9、11、12回）	学習する	むり むりをする

(2) 一見、同一の用法に微妙な差のあるもの。

明六漢語（出典、頻出度）	日本語	中国語
批評（第3号、2回）	評価する、 自己批判	批判する つるしあげる
性質（第1号、3回）	性質	生まれつき 性質
巡査（第12号、1回）	警察官	見回る

以上のように、中日漢語語彙は意味上の相違点を持つのである。

四、まとめ

筆者は『明六雑誌』における二字新造漢語の研究を通して、明治初期の日本が言語を含めてありとあらゆることが根底から変革した激動の時代であったことを再認識した。漢語は現在にも造語力を持ち、新文化の摂取に対応し得ている、日本語の中の重要な要素を成す語彙である。日本人が作り上げた新造漢語はその多くが修正されることなく中国人に頻用され、現代中国語語彙群の中の極めて重要な位置を占めるようになっている^[5]。これは中日両国の語彙交流史の中では前例をみることがないのであろう。

参考文献:

- [1] 鳥海靖. 明六雑誌と近代日本 [M]. 東京: 日本放送出版協会, 1994.
- [2] 佐藤喜代治. 日本語の語彙の特色 [M]. 東京: 明治図書, 1982.
- [3] 高野繁男. 明六雑誌の語彙構造—二字漢語を中心に [C]. 神奈川: 神奈川大学人文学研究所報 35, 2002, 3: 47-57
- [4] 磯貝秀枝. 明治初期における漢語の研究—「和英語林集成」を通して見た漢語の推移— [J]. 東京. 日本文学, 1964, 3: 69-91
- [5] 鈴木修次. 日本漢語と中国 [M]. 東京: 中公新書, 1981.
- [6] 日向敏彦, 高野繁男. 明六雑誌語彙総索引 [M]. 東京: 大空社, 1998.

关于授受动词作为辅助动词的使用方法

陈咏梅

(北京林业大学外语学院)

摘要：授受动词可以表示物或行为的给予关系。在当今的日本社会，人与人之间的关系主要由恩惠的给予、接受所支配。授受动词的使用无处不在，成为不可或缺的表达方式之一。

但是要想掌握授受动词的正确的使用方法却不是一件简单的事情。主语和宾语之间、说话者与其对方、己方同他方、内与外的区别很复杂，不容易区别。即使是叙述一件事情，也会因说话者立场的不同，而有不同的表达方式。

在本文中，笔者想以授受动词中成为难点的作为辅助动词的使用方法为主题进行研究。从辅助动词的角度分别就各个动词的用法及各种授受表达方式之间的区别展开分析。“てやる”属于“自行他利态”，即由自己的动作给他人带来利益的表现；“てもらう”属于“自行自利态”，即请求别人做利于自己的行为表现；“てくれる”属于“他行自利态”，即他人行为为自己带来利益的表现、文中从以上几类的表现内容、表现特征等方面对授受动词的辅助动词的使用方法进行了全面的概括和总结。

关键词：授受表现；自行他利态；自行自利态；他行自利态

補助動詞としての授受動詞の用法について

陳咏梅

(北京林業大學外國語學部)

要旨 本動詞としての授受動詞は、ただ物のやりとりを表して、割合易い。それらが補助動詞として、ほかの動詞に付き、授受表現として用いられる場合には、外国人にとっては非常に困難な問題になる。本稿では授受動詞の難点となった補助動詞としての授受表現の使い方を、「てやる」は自行他利態で、「てもらう」は自行自利態で、「てくれる」は他行自利態であることを明らかにしていたのである。

キーワード 授受表現；自行他利態；自行自利態；他行自利態

本動詞としての授受動詞は、ただ物のやりとりを表して、割合易い。それらが補助動詞として、ほかの動詞に付き、その動詞の描き出す行為によって、どのような利益や恩恵のやりとりがあるかを認定する表現（あるいは授受表現）として用いられる場合には、外国人にとっては非常に困難な問題になる。

たとえば「買う」と「買ってやる」「買ってもらう」「買ってくれる」の使い分けは、非常に難しい。しかもこの受給表現は、あってもなくても良いのではなく、あるべきところがないと、日本語には不自然になる。例えば、「你给我买的相机」を翻訳するとき、「君が僕に買ったカメラ」あるいは「君が僕に買い与えたカメラ」などと言うのは不自然で、「君が僕に買ってくれたカメラ」とか「僕が君に買ってもらったカメラ」とか、受給表現がないと落ち着かない。また、佐治圭三は『外国人が間違えやすい日本語の表現の研究』の中で、次の例を挙げた：この関係を表すには「やる」は使えず、「君が僕に買ってやったカメラ」

などとは言うことができない。「僕が君に買ってやったカメラ」とは言えるが、これは、ことからが異なり、利益の授受の方向が逆になる。ついでに記せば、「君が僕に買ってもらったカメラ」は不自然で、「僕が君に買ってくれたカメラ」とは言えない^[1]。

そこで、本稿では授受動詞の難点となった補助動詞としての使い方を、例をあげながら分析して、明らかにしたいのである。

一、授受表現の区別

補助動詞として授受動詞の表現の区別は下記の三つの文のように示している：

- (1) おじさんは弟に自転車をかってやった。
- (2) 弟はおじさんに自転車をかってもらった。
- (3) おじさんは弟に自転車をかってくれた。

上記の三つの文はすべて「叔叔给弟弟买了辆自行车」を表す。しかし、説話人の立場が違って、行為主体と受領対象の地位の違いによって、表された利益関係と方向も違う。日本語には、「てやる/てもらう/てくれる」のような恩恵と利益の授受関係を表す補助動詞は「やりもらい」表現と称する。即ち、授受表現と言われる。鈴木重幸によれば「てやる」は自行他利態で、「てもらう」は自行自利態で、「てくれる」は他行自利態であると言えよう^[2]。

二、自行他利態「てやる/てあげる/てさしあげる」

話し手または他者 A から他者 B へ恩恵や利益を与える行為が授受することを表す。A は行為主体である A とともに文の主語でもあり、話し手の視点も A の側にあるため、「自行他利」の構造になっている。B は恩恵や利益の接受者であって、「を/に/ために」で表す。

(一) てくれる/てあげる/てさしあげる」で行為のやり取りを表す

例：

- (4) 田中さんに本を貸してあげました。(我借书给田中。)

(5) 林さんが、けがをした僕の代わりに走ってくれました。(小林代替受伤的我奔跑。)

(6) みんなは田中君を許してやった。(大家原谅田中了。)(周平, 陈小芬の「新编日语」)^[3]

(二) 対象の性質によって、表現方法は異なる

1 動作対象は接受者の所有物である場合、「の」で目的語を表す。例:
(周平, 陈小芬の「新编日语」)^[3]

(7) 弟の宿題をみてやった。(帮弟弟看作业。)

(8) 私は壊れた彼の自転車を直してあげた。(我帮他修坏了的自行车。)

(9) 私は母の仕事を手伝ってあげた。(我帮妈妈干活了。)

2 受益者は動作対象(方向)と一致しない場合、受益者を「ために」で表すべきである。例:

(10) 岡山さんは佐藤さんのために林さんに助けてあげる。(岡山为了佐藤帮助小林。)

(11) 太郎が花子のために高い値段で布を売ってやった。(太郎为了花子高价卖了布。)

例文(10)、(11)の中の「ために」は受益者を表す。例文(10)の「助ける」の相手は林さんであるが、受益者は佐藤である。例文(11)の「買う」の対象は省略された「お客さん」であるが、受益者は花子である。例文(11)の受益者花子は「に」で表すと、「太郎が花子に布を売った」と誤解される場合もある。

(三) 長者や目上に直接に話をする時、授受表現で表せない

年長者や目上に直接に話をする時、あまり「てさしあげる」は使わなくて、謙譲の形式あるいは請求の形式で表す。例:(周平, 陈小芬の「新编日语」)^[3]

(12) × 先生、この本貸してさしあげましょうか。

○ 先生、この本お貸ししましょうか。(老师, 这本书借给您。)

(13) × 来週のピクニックに先生も誘ってさしあげましょうか。

○ 来週のピクニックに先生も来てくださいますか。(下周的郊游, 能请老师您也来参加吗?)

「てやる/てあげる/てさしあげる」のような補助動詞は恩恵と利益の授受関係を表す意味が含まれているので、目上や年長者に直接に話をする場合に用いると、相手にある恩恵を与えるみたいであって、不自然になる。

しかし、直接に会話をしない場合、相手は目上であっても、「てさしあげる」も使える。例:

(14) 先生が本をお持ち(ierr)らっしゃらなかったから貸してさしあげた。(老师没带书来, 我借给他了。)

三、他行自利態「てくれる/てくださる」

他者 A から話し手 B へと行為が授受されることを表す。A は行為主体であるとともに文の主語だが、話し手の視点は B の側にあるため、『他行自利』の構造になっている。A が目上やあまり親しくない人の場合には、「てくださる」を用いて、A に敬意を払うことができる。

(一) 話し手は行為主体に対しての感激を表す

恩恵として与える行為は、ソト側の与え手の自発的である場合が普通である。恩恵の受け手が話し手自身であれば、特に明記する場合を除いて表層文に表れることはない。そのほかの文法的特徴は授受動詞が付加されても変わらない。しかし、なかったら不自然になる。例:

(15) 社長が私達の結婚式に来た。

→社長が私達の結婚式に来てくださった。(社长来参加我们的结婚仪式。)

(16) お医者さんが息子を診た。

→お医者さんが息子を診てくれた。(医生给我儿子看病。)

(17) 先生は私をほかの先生方に紹介した。

→先生は私をほかの先生方に紹介してくださった。(老师把我介绍给其他老师了。)

(二) 与え手は第三人称に限らない

以上の例文は主語、利益の授与者 A が第三人称であるが、第二人称であっても、成立できる。例：

(18) あなたは子供のように喜んでくれた。(你像孩子一样为我而高兴。)

(19) 君たちは手を出してくれなくてもいい。(你们不帮我也可以。)

一般的には、利益の接受者 B は第一人称、あるいは自分側の人であるが、会話や小説の中に、第二人称や第三人称である場合もある。例：

(20) まあ、おばあさんがお前たちにわざわざ買ってくださったのだね。(哎呀，是奶奶特意给你们买的呀。)

(21) 彼はいい人で、きっとお前を隠してくれます。(他是个好人，一定会把你们藏起来的。)

例文 (20)、(21) の主語 A は第三人称で、受益者は第二人称である。これは説話人は相手の立場に立って、相手のことを自分のこととして表すのである。第二人称を受益者として、第三人称と関係が発生させた。

(三) 与え手は人間に限らない

この構文では、意志を発揮できない無生物も与え手の立場に立つことができる。この用法は、書き言葉によく見られる。例：

(22) 肝臓は、体にとって異物のアルコールを分解して、害のないものにしてくれる。(肝脏把对身体来说为异物的酒精分解，并将其变为对身体无害的东西。)

(23) 雨が降ってくれるといいなあ。(给下场雨该多好啊!)

(24) 時間を節約してくれる商品はどんどん登場している。(节约时间的商品在不断上市。)

動詞の「くれる・くださる」と比べて、恩恵として与えるものが物品ではなくて、行為である場合は、「てくれる/てくださる」という複合動詞が用いられて、その構文の表す意味は、「事物が、ソトから話し手の領域に移る。それによって受け手側が利益を受ける、また、それを好感を持って受け取る」である。